

令和5年度 江戸川区立下鎌田小学校 学校関係者評価 最終評価報告書

学校教育目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>—しなやかで、たくましい心からたを育む下鎌田小—</li> <li>○思いやりのある子</li> <li>○よく考える子</li> <li>○明るく元気な子</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>目指す学校像</li> <li>目指す児童像</li> <li>目指す教師像</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自分のめあてに向かって最後までやり通す子供</li> <li>○友達との競い合いを通して、自他を尊重できる子供</li> <li>○探究心が旺盛で、何事にもチャレンジし、失敗してもへこたれない子供</li> <li>○美しいものに感動する豊かな感性をもつ子供</li> </ul>
前年度までの学校経営上の成果と課題	<p>&lt;成果&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・旧下鎌田小学校、旧下鎌田西小学校とも統合を念頭に交流を実施し、次年度への意欲をもたせることができた。</li> </ul> <p>&lt;課題&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校統合により、各学校の良い取組を統合にどのように生かしていくのか。</li> <li>・PTAや学校応援団が一度解散、活動停止をしたため、どのようにスタートさせ、進めていくのが課題である。</li> </ul>		

教育委員会重点課題	<取組項目>・評価の視点	具体的な取組	数値目標	自己評価		学校関係者評価		年度末に向けた改善策
				取組	成果	評価	コメント	
学力の向上	<学習の基盤となる基礎・基本の確実な習得>	・年間通して放課後補習教室を実施し、児童の基礎学力及び学習意欲の向上を図る。	・放課後補習の140回以上の実施。	B	C	B	・放課後補習の実施回数も大切だが、学習を定着させる目的が達成できるように工夫が必要。児童のやる気を引き出すようにしたい。	・東京ベーシックを活用した診断とその結果を基にした補充を継続する。
	<家庭学習習慣の確立>	・ICTを活用した授業の実施	・江戸川つ子study week!を実施し、学年ごとに決められた家庭学習を80%以上の児童が達成。	A	A	A	・ICT支援員による研修などで得た教材やICTの活用方法を積極的に授業に取り入れ、効果的な学習ができた。	・江川つ子study week!では、ミライシードを活用した家庭学習をすべての学年の80%以上の児童が達成した。
	<授業改善の推進>	・高学年を中心に教科担任制を実施する。	・年間通して高学年での教科担任制の実施。	A	B	B	・教科担任制の取組はよい。担任の先生が児童の特性を把握して指導するのも良いが、特に高度な内容になればなるほど専門性をもって教えるほうが児童にとっても良い。	・教科担任制の良さを活かして、専門性の高い授業を行っていく。
	<読書科の推進>	・朝読書を通して、自己の興味関心や課題にあった本を選び、考えを深められるようにする。	・年間通して朝読書を23時間(69回)以上実施する。	A	B	B	・朝読書などで紙の本を読むという経験は大切なので、ぜひ読ませたい。大学でも文章が分からない、理解できないという学生がいる。国語力の問題でもあるので、併せて取り組ませたい。	・来年度も学校応援団の方による読み聞かせなど、保護者や地域の方の力をお借りして児童の読書活動を推進していく。
体力の向上	<運動意欲や基礎体力の向上>	・体育科の実技研修を実施し、教師が運動する楽しさや運動の方法を理解して指導できるようにする。	・体育実技研修を学期に1回以上実施。	B	B	C	・学期に1回の研修は設定できた。	・来年度は全学年が校庭で毎日外遊びをする機会を設け、運動会への確保を図る。
共生社会の実現に向けた教育の推進	<特別支援教育の推進>	・巡回指導教員、スクールカウンセラー、特別支援コーディネーターの連携を深め、必要児童への個に応じた対応を推進する。	・巡回指導教員による特別支援研修会の実施。	B	B	B	・特別支援教室の児童の学級を対象に理解教育を実施、教員・児童共に個性尊重の意識向上、学級内での座席の配慮など個別支援が行われた。	・理解教育は継続的に実施していく。
子どもたちの健全育成	<子どもたちの健全育成に向けた取組>	・生活指導夕会を実施して児童や学級の状況について共通理解を図る。	・毎週生活指導夕会を実施。	B	B	B	・生活指導夕会を毎週実施し、学年・学級の状況や不登校傾向にある児童の様子について共通理解を図った。	・「SOSの出し方に関する教育」をさらに推進し、身近にいる信頼できる大人に速やかにSOSを出すことができるようにする。
地域に広く開かれた学校(園)の実現	<自校(園)の取組の積極的な発信>	・ホームページを定期的に更新していくとともに、teturuを活用して、学校情報を保護者にタイムリーに伝えていく。	・各学年、月に2回以上はホームページの更新を実施。	A	A	A	・毎月各学年2回以上ホームページの更新をしている。	・毎月各学年2回以上のホームページ更新を今後も目指していく。
	<学校関係者評価の充実>	・保護者や地域等、学校の教育活動について広く評価する機会を設ける。	・Forms等を活用し、広く保護者や地域等学校関係者の意見を集め、学校経営の改善に生かす。	B	B	B	・学校ホームページ等を利用して関係者評価を広く公開している。	・来年度も学校関係者評価を公開し、広く意見をいただく機会を設ける。
特色ある教育の展開	<ゲストティーチャーを活用した本物の体験>	・ゲストティーチャーによる授業・体験を通して、児童が豊かな心を育む機会を設ける。	・各学年、ゲストティーチャーによる授業を実施し、よさを実感することのできた児童90%以上(アンケートによる)。	A	B	B	・各学年、複数回ゲストティーチャーや地域との連携による体験活動を取り入れた。今後、さらに学習内容との連携を図っていく。	・次年度も教科学習と関連し、ゲストティーチャーを活用した授業や地域と連携した活動を計画・実施し、児童の豊かな感性を育てていく。
	<児童の願いを実現する活動>	・金管バンド、ネオホッケークラブを設置し、児童の思い、願いを実現する。	・1学期に金管バンド、2学期にネオホッケークラブを開始し、管楽器演奏発表会や地域のネオホッケー大会に参加する。	A	A	A	・金管バンドの立ち上げは2学期となった。開校記念集会や金管バンド発表会など校内で披露したり、江戸川区の管楽器演奏発表会に参加した。	・金管バンドは年度内に次年度の団員募集を行い活動を始める。管楽器演奏会以外にも発表の場を考えるなどし、児童が満足感をもって取り組めるようにしていく。